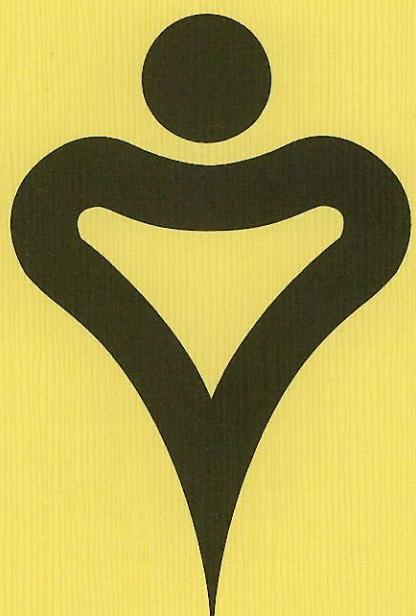


創立10周年記念誌



JCOA
IBARAKI

茨城県臨床整形外科医会

目 次

1. 茨城県臨床整形外科医会創立10周年にあたって	会長	大木勲	1
2. ご挨拶	初代会長	石島弘之	3
	第二代会長	小松崎睦	5
3. 祝辞				
	日本臨床整形外科医会理事長	安部龍秀	7
	茨城県医師会長	佐藤怜	8
	参議院議員	武見敬三	9
	茨城県保健福祉部長	綿抜剛	10
	茨城労働局長	梶田洋二	11
	茨城県労災保険指定医協会会长	後藤昇	12
	茨城県病院協会会长	浦川勝	13
	茨城県有床診療所協議会会长	島田理	14
	筑波大学整形外科名誉教授	林浩一郎	15
	筑波大学臨床医学系教授	落合直之	16
	日本臨床整形外科医会理事	那須耀夫	17
	東京都臨床整形外科医会会长	高田聰	18
	千葉県臨床整形外科医会会长	清水完次朗	19
	埼玉県臨床整形外科医会会长	矢島秀世	20
	神奈川県臨床整形外科医会会长	吉田元久	21
	栃木県臨床整形外科医会会长	青木善昭	22
4. 茨城県臨床整形外科医会の生い立ち	初代会長	石島弘之	23
5. 茨城県西整形災害外科懇話会について	大木勲	25	
6. 平成12年度茨城県臨床整形外科医会総会講演	浜松医科大学名誉教授	井上哲郎	27
7. 茨城臨床整形外科医会ゴルフコンペ成績		30	
8. 会員紹介		41	
9. 編集後記	高木俊男	83	



ご挨拶

茨城県臨床整形外科医会会長

大木 勲

ご参会の皆様、本日は茨城県臨床整形外科医会10周年記念会にご出席くださいまして、誠にありがとうございます。

参議院議員武見敬三先生には、前回の選挙でご当選されました、誠におめでとうございます。本日はお忙しい中、記念講演にお越し下さいまして、会員一同感謝している次第であります。ただ今我々にとって最大の関心事であります今後の医療改革について、小泉内閣の構造改革の中でどのようにしていくのか、政治家のお立場からお話を伺えることは大変意義深いことであります。

ところで、当会が正式に団体として日本臨床整形外科医会（JCOAと略す）に登録して、今年で丁度10年になります。そこでこの機会に本会の創立前後から今日までの歴史を振り返り、10周年記念会を行って、記念誌を発行し、本会の発展に尽くされた先輩諸先生を顕彰して感謝申し上げることにしました。

JCOAは全国の整形外科開業医と私の医療機関の勤務医の学術と親睦の会として、昭和49年4月6日に設立されました。それから現在では5,120名の会員を擁する大きな団体になりました。茨城県の会員は現在90名です。JCOA設立当時から茨城県からも個人参加として多数の先生がこれに参加しておりました。昭和53年当時の記録によりますと、46名の先生が会員になっています。当時は本県で年1回の研修会と2回のゴルフの会を開催して親睦を深めていたようあります。当時私は大学の教職にありまして、本会の会員ではなかったので詳しいことは申し上げられません。私個人につきまして昭和から平成の時代に代わった時に、大学を辞して父親の代わりに病院を引き受けことになりました、JCOAの会員になりました。その後、茨城県でも団体としての組織作りが必要になり、平成3年10月24日に団体としての準備委員会が開かれることになりました、石島初代会長に誘われて準備委員会に加わりました。翌月の11月18日には当会の第一回総会が開催されて、団体としてのJCOAへの参加が正式に承認されました。それから今年の秋で10年になります。

私が第三代の本会会長に選ばれたのは平成10年の総会でした。近づく医療大改革を前に、会員の絆を強めることが最も大事と考え、「茨城JCOAニュース」を発行し、FAXによる連絡網を整備することにしました。このニュースも既に第8号を重ねることが出来ました。そして最近では県内を4ブロック（県央、県北、県南、県西）に分けて、各ブロックに2

名の責任者をつくり、会員相互の連絡をより密にして、問題の解決を速やかに行うよう努めています。

今後とも微力ながら本会の発展に努めていく覚悟ですので、ご参会の皆様をはじめ各方面の方々にはご支援、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。





茨城県臨床整形外科医会の 搖籃期

初代会長

石 島 弘 之

私が大学から父の開業の後を引き継いで水戸に帰ってきたのは、昭和49年の4月でした。ちょうど第一次オイルショックに遭遇して建築資材が調達できずまた必要資金も高騰する始末で大変苦労した開業になりました。

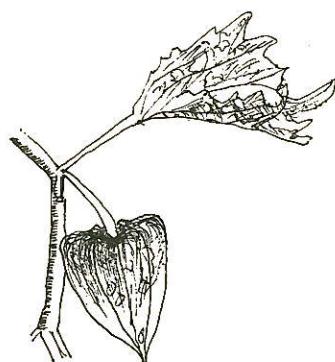
その頃の救急医療体制はまだまだ不十分で救急告示機関になった途端毎日毎晩のように急患がきて不眠不休で治療に当たった思い出があります。最初に市内の整形外科医の会に出席していわゆるデビューしたのはその年の夏ごろであったと記憶しています。水戸地方整形外科懇話会と言ったと思いますが、水戸および勝田、石岡、笠間、岩瀬までふくんだ会で幹事は当時国立水戸病院の松葉健先生がありました。茨城整形外科集談会のことやその他地区の整形外科の事情について情報を得たのはこの会からでしたが、そのころは臨床整形外科医会が発足（昭和49年4月）して間もない時代であったと思います。したがって情報はほとんど入ってきませんでした。

日本臨床整形外科医会（以下JCOA）が発足後、茨城県はしばらく個人参加県であり、したがって会員が集まる機会は無かったように聞いています。県の代表者はJCOA本部から個人的に直接お願いして引き受けさせていただいたらしく、初代の代表者は伊野林斎先生（土浦）と伺っています。その後、野村勇先生（龍ヶ崎）が代表になられました。昭和53年のJCOA名簿には先生が代表者として掲載されているのでおそらくその1~2年前から就任なさっておられたものと推察します。当時の会員数は46名ありました。私もこの頃に個人で入会しましたが、たしか大正製薬のプロパーが入会の案内書などを届けてくれたと思います。

野村先生は体調を崩されて一時伊野先生が再任されましたが、昭和57年より岡崎亨先生（水戸、故人になられました）が引き受けられました。そのさい私が先生の補佐役を仰せつかったわけであります。先生はご多忙であったことやお体もあまり良くなかったこともあります。都道府県代表者会議や関東ブロックの会議など私が代わって出席しておりました。このころよりJCOAの活動も活発になり研修会や学会などが各県持ち回りで開催されいろいろと会員に連絡することも多く、さらに日整会認定単位のこと、JCOAの拡大と法人化などの問題がつぎつぎと生じてまいり、県としての意見を求められる機会がふえてきました。平成2年になって岡崎先生が代表を辞退され私が後を継いだわけですが、平成

3年になってから次の第5回JCOA学会を千葉県が引き受けることになって、茨城も共催しないかとの話が参りました。団体県になるのには好い機会になると千葉県の三橋先生や奥山先生に説得され、平成3年10月24日、15名の有志が水戸京成ホテルに集合し準備委員会を開き発起人になっていただき、11月18日に第一回総会を開催して団体県となることを決定しました。その折、千葉県より三橋稔先生がわざわざお見えくださって祝辞をいただいております。会則を承認し年会費を最低の千円にいたしました。私の力では年一回の総会と講演会開催がやっとであるとの考え方からでした。その代わりに理事会や全国代表者会議などの旅費は自腹を切ることで役員の先生方には大変ご迷惑をおかけいたしました。

平成4年6月27・28日には、幕張メッセで千葉県とJCOA学会を大過なく開くことができ、県の団結をより強くすることができたと思っています。さらに、平成5年2月20日には第23回関東ブロック研修会を主催して、名実ともに団体県として自立できたと感慨を深くいたしました。私が代表を務めて2期4年間、役員の先生は県北県央県南県西の各地区からお願いして各地区でも親睦と研鑽に励むようにいたしましたが、あまり効果があがらなかったようでした。しかし、年一度のゴルフ大会は盛況で楽しい時間をすごすことが出来ました。今振り返って、次の小松崎睦先生にバトンタッチするまであまり大したことできず申し訳なく思います。その間いろいろとご指導いただいた役員の諸兄に心からお礼を申し上げて10周年のお祝いの言葉といたします。





わたしとJCOA

第二代会長

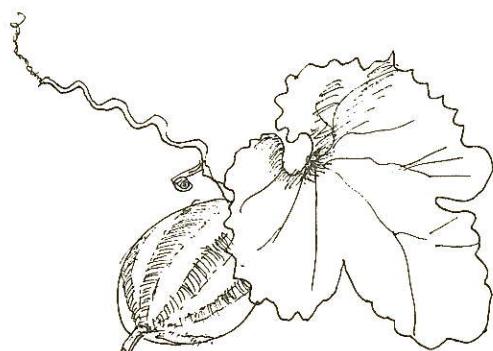
小松崎 瞳

昭和56年頃JCOAという開業医会があり、日本各地で持ち回りで研修会が開催されていたことを知った。昭和56年は、京都国際会議場で開かれるということで一度行ってみたいところだったので、参加することにした。会議場では、小雨降る中、一見さんでは、なかなか拝見することができない舞妓はんの踊りを堪能することができると同時に、これは大変に費用の嵩む会だなというのが実感であった。その後、毎年の如く各地での研修会に参加したのだが、研修会は半分以上がエクスカーションなので、日本の各名所旧跡を見学する楽しみが増えた。

ゴルフも同時に行われたので、参加してみたところ、長崎の折には3位ということで鼈甲の賞品をもらって、ひな壇に上ったが、優勝者の賞品とは雲泥の差があったことを覚えている。南は鹿児島の開聞岳、長崎のおくんち、福岡のどんたく、山口の門司のふく、別府の関サバ、広島の二本松GC、岡山の蛍、香川の坊ちゃん、島根の宍道湖、奈良の散策、新潟の酒、神奈川の箱根、仙台の杜、盛岡の八幡平と十和田、札幌のラーメン、日本の有名な処はほとんど研修会参加と称して行ってみた。参加してみて感じたことだが、あまりにも盛りだくさんのエクスカーションがあるので、将来もし、茨城県に当番が周ってきたときには、参加者の人たちに満足のいくオプションが、取れるものかどうか、心配になってくる。残念ながら毎年の当県の参加者が少ないので、親睦会での、県別の席はさびしい限りだが、毎年の如く行っていると次第に顔見知りとなって再会の握手がふえて、一方では楽しい会であると思っている。

平成4年6月27日に千葉県と合同で関東ブロックの研修会を幕張メッセにて開催。JCOAというもの一部が判ったような気がした。平成4年7月18日会員数60名を擁して石島会長のもと団体県として登録。平成6年石島会長は、県医師会の理事を務められることとなり、県医のほうが忙しくなられたので、私に会長の任をまかされた。会員数は71名だったと思う。平成7年、1995年には、会員名簿作成、会則の改正、会費の値上げ等を決め、団体県としての茨城をアピールするように努めた。会長の主な仕事は、本部よりの連絡を全会員に通知し県自体としての活動を円滑にすることに努めることである。役員に有能な方をお願いし次第に場を広げていった。平成7年11月18日には、関東ブロックの当番県として会場を大正製薬本社を借り受け研修会を開催させていただいた。当日の参加の呼びか

け、講師のお願い、懇親会の費用の予想計算等今にしてみると、面白い経験をしたと思っている。赤字にならないよう会計の後藤先生とも相談し細心の注意をしたつもりである。結果として黒字だったと思う。私は、不覚にも持病の腰痛giving-wayが出現し、入院、opeの憂き目にあい、ご迷惑をおかけした。しかし優秀な会員の協力で会は成功裏のうちに終わった。あらためて御礼を申し上げる。その後、会としては、自賠責における日医の新基準の取り扱い、労災のRIC加盟への説明等、整形外科関係の案件も無事終わったが、次第に医業に対する大蔵・厚生省からの締め付けが厳しくなってくるに従い、政治家との折衝が必要となり、滝田先生、市原先生の人脈をお借りして慣れない陳情らしきものも経験した。政治家とのパイプが太いというのも、本県の特徴かもしれない。一方、JCOAとの間で何のメリットがあるのかという意見ちらほらと聞かれたので、なるべく本部よりの連絡を密にしようとしたが、いかんせん私の力では限界があったので平成9年をもって大木勲先生にバトンタッチしていただいた。大木先生は会報の充実という問題を解決され、私の及ばなかった点で活躍され、大満足というところである。





10周年記念を祝して

日本臨床整形外科医会理事長

安 部 龍 秀

茨城県臨床整形外科医会がこの度10周年記念を迎えること、心よりお祝い申し上げます。

茨城県臨床整形外科医会は、平成3年11月からJCOAの団体県として正式に加盟しております。それ以前は個人参加県として、ご参加いただいておりました。

茨城県整形外科集談会、茨城整形外科医会から、役員、会員の皆様のご努力、ご尽力により現在の、会員数90名の立派な茨城県臨床整形外科医会に発展されました。この発展の陰には、伊野林斎、野村勇、岡崎亨先生はじめ、初代・石島弘之会長、2代・小松崎睦会長、現在の3代・大木勲会長等の並々ならぬご苦労、ご尽力があったものと思います。そのご尽力に深く感謝申し上げる次第でございます。JCOA関東ブロックの各県代表者会議にもご参加をいただき、研究会、茨城スポーツ医学研究会等、会員の研修にもご努力、ご尽力をいただいております。平成10年10月には「茨城JCOAニュース」を発行され、広報活動、情報の連絡はじめ、会員の増強に努めておられます。JCOAにも、各県代表者、代議員、各種委員会委員等、お送りいただき、JCOAの事業、運営にご協力いただき感謝申し上げます。

JCOAにとり政治力の強化は重要であります。茨城県臨床整形外科医会では、前厚生大臣・丹羽雄哉衆議院議員との懇談会を以前から開催されており、JCOAと丹羽雄哉厚生大臣とのパイプにご援助、ご協力をいただきありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

医療を取り巻きます環境は、大きく変動の時期を迎えております。介護保険制度の導入、医療構造改革、また、医療費総枠の抑制、保険者と医療機関との直接契約、株式会社の医業への参入、ガン保険等の民間保険の参入等難問が山積し、厳しい状況が続きそうであります。

厳しい医療環境の中、茨城県臨床整形外科医会が10周年を機に、更に団結を強められ、更なる飛躍を遂げられんことを祈念し、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



10周年記念を祝して

茨城県医師会長

佐 藤 怜

茨城県臨床整形外科医会が創立10周年を迎えたことをお慶び申し上げますと共に、貴会が今日の隆盛を迎えたことを心よりお祝い申し上げます。

貴会の皆さんには日頃、茨城県民の健康を守る為に茨城県の数々の事業に多くの先生が率先して参加され、リハビリテーション事業や身体障害者の認定事業或いは介護保険に於ける機能回復などが順調に運営されていますことは誠に喜ばしく、これ等の活動を通して多大なご貢献を頂いていることに心より感謝申し上げます。

又、茨城県医師会に於きましても、医師会役員に貴会より副会長として石島先生、常任理事として大木先生、理事として小松先生が参加して多大なご貢献を頂いておりますし、更に医師会内部の活動にも多くの会員が健康スポーツ医学委員会、労災自賠責委員会を始めとして救急医療、有床診療所協議会、産業保健などと幅広いご活躍を頂き、県医師会活動が極めて順調に運営されますことに感謝しています。

ところで、現在の日本の医療情勢は極めて厳しい状況にありますが、更に国は経済財政改革の一環として社会保障費を抑制しようとしていまして、その為に医療への営利企業の参入、市場原理の導入、保険者機能の強化などを実施しようとしています。

このような重大な医療政策の変更は医療倫理の崩壊、医療の質の低下を招き、ひいては世界に誇るべき国民皆保険制度、医療のフリーアクセスが失われ国民にとって大きな損失になることは明白です。

国民のためにより良い医療を守り更に発展させる為に、先頃の参議院選挙には幸いなことに武見議員を国会に送ることが出来ましたが、更に日本の医療を守る国民運動を起こしていく必要があります。

整形外科医会の皆様には地域医療を通して県民の健康を守る活動を行い、日頃の診療活動を通して良い医療を提供され、これ等の活動を通して医師会の改革の提案を理解して頂く為の活動を期待しています。

最後になりましたが、この度貴会が創立10周年を迎えたことを記念し、貴会の益々の発展を祈願いたしまして祝辞とさせていただきます。



21世紀における医療と政治

参議院議員

武 見 敬 三

創立10周年記念講演

平成13年 9月22日（土）

京成ホテル



10周年記念によせて

茨城県保健福祉部長

綿 抜 剛

この度、茨城県臨床整形外科医会が創立10周年を迎えられることを、心からお慶び申し上げます。

これもひとえに、茨城県臨床整形外科医会の皆様方のご努力の賜物であると深く敬意を表する次第でございます。

さて、少子・高齢化が急速に進行する中、県といたしましては、茨城県長期総合計画に基づき、誰もが健やかに暮らせるやすらぎに満ちた社会づくりを進めるため、保健・医療・福祉施策の一層の充実に取り組んでいるところでございます。

安心な暮らしを支える医療体制の充実を図るため、なめがた地域総合病院の開院を始めとして、龍ヶ崎地域における中核病院の整備や県北地域において県内で4番目となる地域がんセンターの建設などが進められております。

また、介護保険制度の円滑な実施や地域ケアシステムなど保健・医療・福祉の連携によるサービスの充実に努めるとともに、県立医療大学付属病院を中心とした地域リハビリテーション支援体制の整備の推進など、県民誰もが健康で自立した生活ができる地域づくりに取り組んでいるところでございます。

茨城県臨床整形外科医会におかれましては、高齢化の進展等に伴って、加齢に伴う機能の低下や障害の発生に対するリハビリテーション医療など社会における積極的な活動がますます求められているところであります。また、来年開催されますサッカーのワールドカップ大会や全国高等学校総合体育大会など県民のスポーツへの関心が高まりつつある中で、スポーツ医学の分野におきましても、皆様方の御活躍が期待されております。

今後とも、本県の保健・医療の向上のため、引き続き、ご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、茨城県臨床整形外科医会のますますのご発展を祈念いたしまして、創立10周年にあたりましてのお祝いの言葉といたします。



祝 詞

茨城労働局長

梶 田 洋 二

茨城県臨床整形外科医会設立10周年を記念した茨城県臨床整形外科医会史の発刊を、心よりお喜び申し上げます。

また、日頃から労働行政とりわけ労災診療の円滑な運営に関し、大木会長を始め整形外科医会役員の先生方並びに会員の各医療機関の皆様のご理解とご協力に対し、深く感謝申し上げる次第であります。

労災保険制度は、昭和22年労働者災害補償保険法の制定を受けて発足し、業務上・通勤途上において被災した労働者の労働能力の回復・てん補を行い、これらの被災労働者の早期社会復帰を図るとともに、労働災害を未然に防止することを目的としております。

これらの目的の達成に当たっては、的確な補償を行うことはもちろんありますが、医療の面から先生方のご協力が不可欠であります。特に労災医療の特徴として突発的な事故等による傷病が多いことから整形外科の先生にお世話になる機会が多く、また、症状が安定した後も被災労働者の早期社会復帰、職場復帰の観点から専門家としての様々なアドバイスを頂いている結果、多くの被災労働者が救済を受けられることとなっているところであります。

さて、今年1月には省庁再編により厚生労働省となり、行政を取り巻く環境は大きく変化しておりますが、労災保険が目指すところは変わりなく、更なる発展を目指しているところであります。つきましては、引き続き先生方のご協力をお願いする次第であります。

最後に、設立10周年を迎えた貴会が今後益々発展されますことをご祈念申し上げ、お祝いのことばとさせていただきます。



創立10周年を お祝い申し上げます

茨城県労災保険指定医協会長

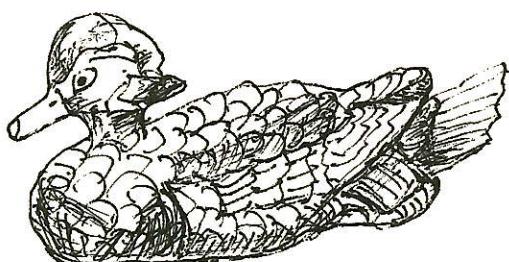
後 藤 昇

茨城県臨床整形外科医会の団体県登録10周年祝賀記念式典に際し、衷心よりご祝詞を申し上げます。

10年前までは、人数が少なく個人参加で、県として発言力もなかったと思いますが、現在は会員数も87名と増加し、団体として活躍されていることに心から敬意を表します。日頃、地域医療に密着しながらのご研鑽、ご活躍の裏には大変なご苦労、ご努力があったものとご推察申し上げます。

平素から茨城県労災保険指定医協会運営に対し多大なご協力、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。労災医療もその殆どが外傷であり、先生方のお力なくしては事業遂行が困難であります。本年度からは、生活習慣病改善の保険も施行され労災医療も複雑化してまいりました。

小泉旋風とかで聖域なき構造改革が叫ばれ医療界にも嵐が吹きまくるかもしれません、この困難な時期こそ団結を深くし、尚一層のご研鑽を重ねられ、貴会が益々のご発展をされますことをお祈り申し上げます。





医師は癒しの プロであるべき

茨城県病院協会会長

浦川 勝

茨城県臨床整形外科医会10周年おめでとうございます。

さて、整形素人の私には、失礼ながら、守備範囲は、大工さん、左官屋さん、ベンキ屋さん、マッサージ屋さんとうつる。

ましてや、一般の世間では、そのように見られるかもしれない。それならそれに応えるのも、生活の知恵であろう。

最近、整形外科の医療経営は苦しいといわれている。また、その結果が患者さんの期待に反した場合には、ブーイングも多い。それでは、その要望に応えるのが、合目的であろう。そのためには、大工さんの仕事に、精進してはどうか。柱を真っ直ぐに修正して、左官屋さんのように立派な壁を作り、塗りこみ、部品交換して、襖を修正し、それでも不十分なら、リハビリして、マッサージしてあげる。そして、よりよく、快適にしてあげる。

それが、整形外科医としての国民の人生の豊かさに通ずる筈である。大工さん、左官屋さんは、整形外科の独擅場である。

最後に、マッサージ等は、整形外科医は、見下しているかに見える。整形外科に限らず、内科、外科の医師の所へも、肩、頸、腰が不調な人がたくさん存在する。

巷に接骨、マッサージ、ハリ、アンマの需要が多いのは、整形外科医は承知の筈である。整形類似の医療行為をやって、健康保険を使うのを規制しようと怒るのは、本末転倒ではないか。

整形外科医が、指導教育して、国民の要望に応えるのが原点ではあるまいか。

整形が、外科から分離されたのは、たかだか4～50年である。内科、外科等が、その中で専門分化時代であり、次には、臓器別に集約される要望がでたりするようである。

私の外科医局時代は、教授が、将来開業医になるのだから、整形の患者さんは無理には整形にまわさないで、自分で診察せよと言われたのが忘れられない。

ハングリー精神を教えるためだったのかもしれない。

ハリ、灸、マッサージの歴史は、古くから存在し、需要に応えたのである。

その原点を、今一度初心にもどって見つめ直すのは如何だろう。



10周年記念祝辞

茨城県有床診療所協議会会長

島 田 理

本日、茨城県臨床整形外科医会が10周年を迎え、盛大に祝賀会を催されましたことを心からお祝い申し上げます。

このたび茨城県有床診療所協議会の代表として栄えある会にお招き頂きましたことを心からお祝い申し上げます。

国民医療費が国家財政を大きく圧迫しはじめ、医療費抑制政策がとられてから、医療機関は純粋に診療にのみ専念することができず、医療経営や果ては生活にまで不安を感じながらの日々を過ごしてまいりました。

その抑制策項目の中に小規模入院施設の廃止論がありました。古来から日本特有の診療形体である有床診療所が、諸外国では類をみないものとして、有用性が否定され、少なくともその使命は終わったとして暗に行政サイドから縮小又は無床化への転換を促す如き医療法の改正が数回にわたり行われました。

この危機感から全国各地で主として外科系の先生方が立ち上がり、結束して1988年に全国有床診療所連絡協議会が設立された訳です。

実はこの運動の中核となって活動されたのが臨床整形外科医会の先生方であったとお聞きし、その行動力と御努力に敬服しているところです。

お陰さまで現在有床診療所協議会は昨年発足した茨城県の124名を加え、全国30県、会員4,682名に達し日医或いは行政に対してもかなりの発言力が期待されてきております。

外科系に限らず内科系を含め有床診療所は地域医療の最先端で在宅医療の支援機関として、また専門性を充分發揮する機関として必要であり、他国に類を見ない優れた医療形態として今後も整形外科医会の先生方と協調して医療政策の是正向上を目指して努力していくと念願しています。

大木勲会長始め県下の臨床整形外科医会の会員が一堂に集い、諸問題を協議検討されていることは大変意味深く、10周年記念祝賀会にあたり本会の更なる御発展と会員皆様のご活躍を心から祈念しまして御祝辞に代えさせていただきます。



10周年記念に寄せて

筑波大学整形外科名誉教授

いちはら病院

林 浩一郎

本会が無事10周年を迎えたこと、ご同慶の至りです。

整形外科のアイデンティティが危惧される中、地域住民に密着している臨床医会が果たすべき役割は多大なものがあります。生体には動物機能と植物機能がありますが、その動物機能の殆どを一手に扱う整形外科の重要さを我々は地域でもっとアピールする必要があると思います。

さらに高齢化社会に突入して、生理的・社会的弱者である高齢者が激増しつつある現在、運動機能の維持改善で老人の生きがいを支える整形外科の役割はますます重大なものとなるでしょう。

我々は縁あって同じ茨城県という地域で整形外科を生業とすることになりました。この組織のkey wordsをあげるなら、親睦・提携・研鑽の三つと思います。始めに「親睦」を置いたのは会員相互の友好なくては組織の維持もおぼつかないからです。会員たることに喜びを感じるには親睦なくしてはありえません。「提携」は日常の仕事を通じ、つまり患者さんを通じより良い医療と患者・医師間の意思疎通を円滑にするため協力しようということあります。「研鑽」は日進月歩の医学医療の進歩に一人でキャッチアップしようとしても限度があり、相互に刺激しつつかつ機会を提供しつつより効率的な勉強をしようということあります。このkey wordsが会員各位に納得され実践されるならば、我々の組織は本県の医療界にあって瞠目すべき重要な位置を占めることになるでしょう。





ご挨拶

筑波大学臨床医学系教授

茨城県整形外科医会会長

落合直之

茨城県臨床整形外科医会創立10周年記念式典を開催されるよし誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私は、筑波大学へ赴任して4年半と茨城県の医療を目の当たりにして未だ日が浅く、臨床医会の歩みの半分も拝見しておりませんが、茨城整形外科医会会長として一言ご挨拶させていただきます。

私は筑波大学におけるわけですが、本大学病院のシステム上の特異性から、日常診療面ではこれまでとかく病診連携、病病連携が必ずしも円滑に行われていたとは思えず、広く隔てなく皆様方のお役に立てたとは言えないと思います。しかし、これは私の意図するところではございません。国立大学の独法化も間近に迫っております。このお祝いの席をお借りしまして、今後は、密なる連携が行えるようにしていきたいと考えておりますので宜しくお願い致します。

一方、大学病院としての役割は、診療面の協力だけではありません。地域医療の底上げには、斬新なる知識の導入が必要であり、その窓口・広報としての役割は非常に大切と考えております。その意味では、筑波大学を中心として茨城県は、開業医、勤務医、大学関係との隔てなく茨城整形外科医会で一つにまとまっております。このまとまりの良さを大切にし、一層の情報提供に努力していくつもりであります。

21世紀初頭、日本整形外科学会でも世界の流れに同調し、この10年をbone and joint decadeと銘打って、国民に運動器疾患の重要性、すなわち運動器の健康維持が生活の質の維持に直結すること、整形外科医はその維持の担い手であることを大々的にキャンペーンしております。本県でも、県民の健康維持、増進のために、整形外科医が結集して努力していくことが大切であります。今後も、これまで以上に相互の意志の疎通を欠くことなく情報を公開し、互いに切磋琢磨し、それぞれの特色を生かし地域医療の発展に尽くしていくことを祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。



10周年記念によせて

日本臨床整形外科医会理事
那須耀夫

創立10周年記念式典、誠におめでとうございます。小生にとって茨城県の整形外科については大変想い出深いものがあります。小生が東京医大整形外科在職中、時の野崎寛三教授より霞ヶ浦病院整形外科開設の役命を受け稻敷郡阿見町に赴任したのが昭和45年8月、厳しい残暑の日でした。

当時は茨城県の整形外科をリードしていたのは国立水戸病院整形外科部長の松葉健先生でした。臨床整形外科医のみの正式な集まりはまだ無かったと思います。しかし当時から数少ない臨床医も含めて茨城県整形外科集談会があり、それなりに活況を呈していた思い出があります。

10周年記念誌編集委員長高木俊男先生に、昭和53年に伊野林斎先生のご尽力、ご努力により46名の臨床整形外科医が集まって医会を結成したことを伺いました。その当時はJCOAには希望者が個人で入会していたようですが高山瑩先生等の勧めもあって平成4年に団体県として入会し正式に茨城県臨床整形外科医会が発足したと伺いました。以来石島先生、小松崎先生、大木先生に県代表者が引き継がれ現在では90名を越える会員を擁し会報も年2回発行して会員の連携、団結を密にし最近では学術講演会のみならず医政にも積極的に発言し全国的に見ても大変活性化された医会として隆盛の一途を極めており同慶にたえません。

実際には創立20周年にも値する茨城県臨床整形外科医会ですが、10年一区切り、今後ますますの発展を願ってやみません。心より祝意を表します。



お祝いの言葉

東京都臨床整形外科医会会長

高田聰

はじめに茨城県臨床整形外科医会が創立10周年を迎えられましたこと心よりお祝い申し上げます。一口に10年と申しましても、大変長い年月であったことと拝察申し上げます。大木勲会長始め幹事の先生方が一丸となって、組織作りをした結果が見事な果実を結んだものと思います。聞くところによると会員の組織率は極めて高く驚異的な団結力であるとのことです。会というものは徐々に発展してゆくのが健全なる道であると思います。大木先生が自治医大におられた頃から自治医大整形外科主任教授大井淑雄先生が私と東大整形外科医局同期生といった関係で昔から存じあげており、その抜群なる才能と人望は衆目の一一致するところで、密かに期待致しておりましたが、まさに大木勲先生のご努力が実を結んだものと思います。先生を中心に更に会を発展、充実されることを心より希望致します。まだまだ、茨城県全体に良き整形外科医療を普及させる必要があるのではないかと思っております。当然整形外科医を受診しなければならない患者さんが、カイロ等医業類似行為をするものにかかってしまう等沢山の矛盾点があります。その為にも貴県の臨床整形外科医の責務は多大で、更に貴会が益々発展されることを心より願っております。東京都臨床整形外科医会も昭和44年発足以来33年になりました。平成11年11月には創立30周年記念祝賀会を盛大に開催することが出来ました。その際大木会長にも御出席をいただき、感謝致しております。

来年は社会保障制度の見直し、とりわけ医療費抑制は避けられそうにありません。私達整形外科医にとって、大変な難問が振りかかってくることと思います。今こそ、JCOAと共に関東ブロック一丸となって、国民皆保険制度の改悪、フリーアクセスの抑制等とに必死の覚悟で戦っていただかなければなりません。その為にも大木勲先生始め諸先生の強大なる政治力に期待致しております。

東京都臨床整形外科医会としましても、貴会と緊密な連携をとりながら、諸課題の解決をはかってゆきたいと願っております。今後とも御指導御鞭撻の程宜敷くお願ひ申し上げます。終わりにあたりまして、改めて、創立10周年を心よりお祝い申し上げ、お喜び致します。



祝　　辞

千葉県臨床整形外科医会会長

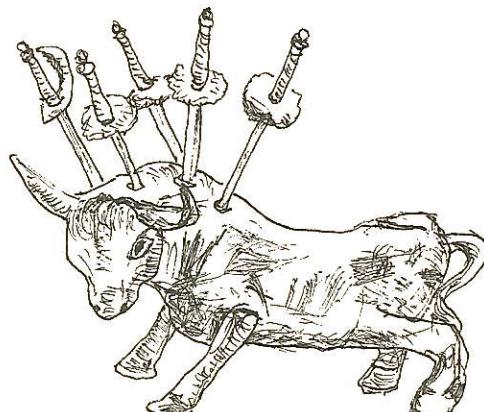
清　水　完次朗

茨城県臨床整形外科医会発足10周年おめでとうございます。

記録をひもといて見ますと平成4年に千葉県がJCOA学会を開催するにあたり茨城県に共催をお願いし、それが契機となり茨城県がJCOAの団体県になったと記載されています。その後の茨城県臨床整形外科医会の発展は目覚ましいものがあり、現在JCOAの関東ブロックの幹事を務めておられます。又、日本整形外科学会も長い間開業医は無視されていましたが、最近ではJCOA会員の活躍でJCOAの協力なくしては会の運営が不可能になってきています。

そこで未だJCOAに加入されていない開業整形外科医の方々、又団体県となっていない県の方々、どうか茨城県を良き手本として、“一人では何にもできない” “一県だけでは何も動かせない”ことを胆に銘じJCOAにご加入いただき、共に手を取り合って開業整形外科医の地位向上のために頑張ろうではありませんか。

終わりに茨城県臨床整形外科医会のますますのご発展お祈り申し上げます。



ご挨拶

埼玉県臨床整形外科医会会長

矢島秀世

茨城県臨床整形外科医会がこのたび10周年を迎えること誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。またこの機会に記念誌を発刊されることも併せてお慶び申し上げます。茨城県臨床整形外科医会が活発に活動している証しがこのような10周年記念式典および記念誌発行に結びついてきていると思います。

JCOA関東ブロックの集まりにおいて、現在幹事県として茨城県臨床整形外科医会が担当しておりますが、将来的には、JCOA学会や研修会を担当するエネルギーを感じております。

整形外科開業医の集まりであるJCOAは、少子・高齢化社会において整形外科医が担うべき役割を地域社会の中で充実・拡大させていくことが使命と考え、各県がそれぞれ活動しております。関東ブロックに所属する貴県の活動内容を参考にして日本臨床整形外科医会埼玉支部の活動を活発にしていきたいと考えております。

茨城県臨床整形外科医会の益々の発展を祈念してご挨拶と致します。





祝　　辞

神奈川県臨床整形外科医会会長

吉田元久

茨城県臨床整形外科医会創立10周年、誠におめでとうございます。神奈川県臨床整形外科医会を代表して、衷心よりお喜び申し上げます。また、盛大なる記念式典にご招待を賜り、有り難く御礼申し上げます。

平成3年10月24日、日本臨床整形外科医会（JCOA）の団体県の発足を目的として、15名の有志の先生方が場所も同じ水戸京成ホテルにてお集まりになり、委員会を開かれ、同年11月18日団体県として同ホテルにて第1回総会を開催されたと聞きおよんでおります。

茨城県には、JCOA発足以前から整形外科医会があり盛んに活動が行われており、JCOA発足直後は個人県として参加されておりました。伊野先生・野村先生・岡崎先生を中心として活動され、団体県になられた後は、平成4年6月には千葉県と共にJCOA学会を、平成5年2月には第23回関東ブロック研修会を主催され、益々発展の一途をたどっておられるに深い尊敬の念を抱いております。

茨城県臨床整形外科医会初代会長石島先生は、団体県の発足に多大の尽力をなさり、前会長小松崎先生はしっかりと基礎固めをなさり、現会長の大木先生は茨城JCOAニュース等の発行など活発な活動を展開され、会の発展に尽くされております。私はこの度、茨城JCOAニュース等を拝読し、大木会長のご活躍の様子を知るにあたり、先生を範とし会長職を全うする所存でございます。

私は茨城県が大好きです。いくつかの理由がありますが、最たるもののは水戸黄門光圀公です。黄門様の水戸学を源流として、斉昭公の弘道館と偕楽園の梅とそして尊王攘夷。「水戸っぽ」とも呼ばれる堅固な意思と直情徑行的ではあるが溢れるばかりのバイタリティ。この「水戸っぽ」の頭脳集団である茨城県臨床整形外科医会と会員の先生方の益々のご発展を祈念して、お祝いの言葉と致します。誠におめでとうございます。



10周年の御祝い

栃木県臨床整形外科医会会长

青木 善昭

茨城県臨床整形外科医会の皆様、10周年記念、おめでとうございます。私の所属する栃木県とは、御隣同士で、医療圏も、一部重複している地区もある、大変親密度の深いものがございます。ご承知のようにお互いにJCOA関東ブロック、1都7県の構成県で、各県の代表者が年に2回会議を開き諸々の問題を話し合い、情報の交換をしております。関東地区選出のJCOA理事も出席し、有意義な意見をいただいております。私も平成5年より、栃木の代表者として8年間出席しておりましたが、その間、茨城県代表者として、石島弘之先生、小松崎睦先生、大木勲先生の御三方と御付き合いをさせて頂き、ご指導を賜りました。本年より貴県が関東ブロック代表幹事となり、2年間頑張っていただきたいと願っております。JCOAも約5,000名の会員となり、各種委員会も増加し、活発な活動を続けておりますが、必然的に来年は、会費の値上げが検討されると思われます。ここでいつも問題になるのは、会員にとって、JCOAのメリットは何か、何をやってくれるのかということです。このことは、一言では表現できないものです。結局、会員がJCOAに対して何ができるのかを考えてくれたら、何か解決の糸口になるような気がいたします。JCOA理事会の先生方も、一生懸命、会員の為にと頑張っておられます。なかなか満足させる成果は上がらないようですが、必ずや光明はさしてくるものと確信しております。我々関東ブロックも、茨城県をリーダーに、一致協力してJCOAを盛り上げていきたいものと思っております。

茨城県臨床整形外科医会の益々の御発展と会員の皆様の御活躍と御健勝を祈念いたしまして、御祝いの言葉とさせていただきます。



茨城県臨床整形外科医会の生いたち

石 島 弘 之

JCOA発足以前、茨城には整形外科医会があり親睦団体としてゴルフなどを数回やっていました。他に集談会が開かれ学術発表が行われて、これは現在も盛大に開催されています。しかし、いずれも開業医、勤務医共に参加する会がありました。

JCOAが発足後、当県はしばらく個人参加県であり、したがって会員が一堂に会する機会はなかったようです。県の代表者も総会で選ぶということもなく、JCOA本部からこれといった会員にお願いをして引き受けていた経緯があります。県の初代の代表者は、伊野林斎先生がありました。先生のお話を伺いますと、数回代表者会議に出席したが、若い先生方が多く自分の出る幕では無いと思って、野村勇先生に後をお願いしたとのことです。昭和53年JCOA発行の当県名簿には46名の会員が載っております。野村勇先生はこの年ぐらいから代表をなさって居られたのではないかと考えられます。先生は体調を崩され代表を辞退され、昭和57年より岡崎亨先生にかわられました。この頃よりJCOAの活動も活発になり、いろいろと会員に連絡する事項が多く、さらに日整会認定医の問題が生じ、当県としても単位のとれる講習会を開く必要性が出てまいりました。年一回は総会を兼ねて講習会を開催することとし、会の運営に熱心な先生方の大学から講師をお呼びして数回開いています。しかし、個人参加県でありましたので、ゆるやかな会としての性格をもっていました。JCOAの拡大と法人化の問題から、県単位の意見、活動が要求される状況に成って、当県内外からも団体県参加の気運が生じてきました。

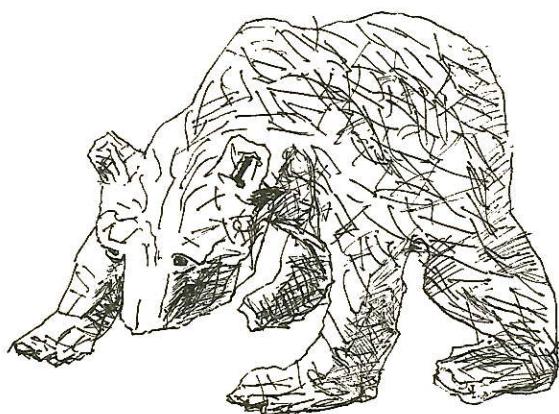
平成3年10月24日団体県の発足を目的として、有志15名が水戸京成ホテルに集合し準備委員会を開き、発起人となって11月18日第一回総会で団体県として承認され、会則役員選出会費等を決定しました。千葉県より三橋稔先生が来県され、祝辞をいただきました。以後年一回総会と講習会を開き、日整会単位を取得できるようにしています。親睦のために年1～2回のゴルフ大会を開催して、十数名の参加があります。

平成4年6月27～28日には、千葉県と共にJCOA学会を開くことができ、県としての団結をより強くすることができました。さらに、平成5年2月20日には第23回関東ブロック研修会を主催して、名実共に団体県として仲間入りをしました。平成5年12月現在会員数67名あります。

ほかに、JCOA茨城の関係している会に茨城整形外科医会があります。会長は筑波大学の林浩一郎教授で大学に事務局を置き、年2回水戸、日立、土浦の主要病院の医長が回り持ち幹事となって集談会を開催しています。水戸地方には整形外科医会もあり、日立、県

西にも同様の会がありそれぞれに活動しています。

スポーツ関係ではスポーツ医学会があり、これも年二回の医師と他のスポーツ関係者も参加して発表と講演を行って盛会であります。



「茨城県西整形災害外科懇話会について」

大木 勲

茨城県臨床整形外科医会10周年記念誌の発行を機会に県西地区の整形外科医の勉強会である標記の懇話会のまとめをしてみようと思っていた。10年以上にもなると資料の不備が出てくる。忙しい合間をぬって2ヶ月近くもかかってまとめることが出来た。

このはじめは昭和天皇のご病気が騒がれ始めた頃、私がまだ自治医大整形外科の教職にいた頃に、上牧恭一先生から電話があり、県西地区で開業している整形外科医が最新の整形外科の話を聞きたいとのことで、結城の「よ志ずや」に招待されたことがあった。上牧先生がお声をかけた数人の先生が集まっていて、熱心な質疑討論があった。その後もう一回程集まりがあったが、もっと多くの先生を対象に講演会をやってほしいとの話になった。当時私は日本側彎症学会の会長をしていた他、千葉大の教授選挙や統廃合直前の国立療養所宇都宮病院の副院長を依頼されたり、落ち着かない日々が続いていた。これらの問題が一段落した時、父親が引退するので結城病院を任せたいということになった。大学を辞職することにしたのは昭和63年の秋であった。平成元年4月に側彎症学会も終わったので、県西地区の講演会を引き受けることにした。それが第1回県西整形災害外科懇話会の始まりである。

講演の後に症例を持参された先生が2、3人いて、夜遅くまで症例検討が行われた。次回はもっと時間をかけて是非症例検討会をやってほしいとの要望があって、第2回目は各先生が症例を持ち寄り症例検討会のみを行うことになった。

しかしやはり日整会教育研修会認定単位も取りたいということになって、第3回からは別表に示したように研修講演会を行い、時間の許す範囲で症例検討もを行うことになった。

ところで平成2年2月2日に有志数人が集まって、第1回講演会も終ったので、正式に会則を作ろうということになり、会の名称、事務局を結城病院に置く、役員は顧問に上牧先生、代表者は大木、世話人に杉村貞男先生はじめ、松丸禎夫先生や山口修先生など7名を選んだ。会費についても決めたが、第6回からは製薬メーカーの共催が得られることになり、会費はなくなり、ホテルでの講演会と懇親会も行えるようになった。同時に結城市医師会と真壁郡市医師会の合同の講演会を兼ねることになった。

それから10年以上の時が過ぎて、回数も20回を超した。今年11月30日には第21回の講演会として星野雄一自治医大教授による「慢性腰痛の病態と治療」を予定している。一方、第6回以後は医師会の講演会を兼ねることになったので、症例検討会が出来なくなった。そんな事もあって、平成10年初めからは症例検討のみを行う会、「茨城県西地区整形外科

勉強会」を新たにつくった。堅苦しい講演会は他でやるとして、気楽な本音の会を食事しながら、3、4ヶ月毎に行っている。参加医師は14、5名ほどで、8病院の若手の医師が交代で世話人になって、その都度会費を集めて、各自症例を持参して、症例検討会を行っている。平成11年には研修講演会がなかったのは、これも一つの理由になるが、医師会の講演会に整形外科関係の講演がなかったことが主な理由である。

今後とも末永くこの形式で、教育研修講演会と症例検討会を別々にやって行く予定ですので、興味のある先生方の積極的な参加を期待している次第です。

茨城県西整形災害外科懇話会開催一覧表

数	開催年月日	場 所	研修講演者名	講 演 題 目
1	平成元年12月15日(金)	下館市民病院	大木 獻	「腰痛疾患の鑑別と治療法」
2	平成2年3月23日(金)	下館市民病院	〃	症例検討会
3	平成2年6月22日(金)	下館市民病院	大井 直行	「長管骨骨折に於ける Interlocking Nailing法」
4	平成2年11月22日(金)	下館市民病院	太田 秀樹	「関節周辺の骨折についてーとくにテンションスワイヤー法を中心にして」
5	平成3年6月20日(木)	下館市民病院	田村 寿将	「頸部外傷性症候群(頸部捻挫)の病態と治療」
6	平成3年11月15日(金)	つたや(下館)	鈴木 愉	「膝関節外傷の診断と治療」
7	平成4年6月26日(金)	つたや(下館)	増渕 正昭	「慢性関節リウマチ治療の実際」
8	平成4年11月19日(木)	よ志ずや(結城)	根本 孝一	「手の外科の治療ーとくに屈折腱損傷を中心として」
9	平成5年7月15日(木)	つたや(下館)	中村 耕三	「骨系統疾患の骨折治療」
10	平成5年11月26日(金)	結城看護専門学校	石島 弘之	「労災・自賠責の現状と将来の展望」
11	平成6年6月23日(木)	つたや(下館)	林 浩一郎	「整形外科の抗生物質治療」
12	平成6年11月17日(木)	よ志ずや(結城)	高木 俊男	「勝つためのスポーツ医学」
13	平成7年6月16日(金)	つたや(下館)	中川 俊	「腰椎椎間板ヘルニアのvenography」
14	平成7年11月7日(火)	下館三の丸ホテル	佐藤 郁夫	中高年のヘルスケア「健やかな中高年を過ごすために」
			星野 雄一	「骨粗鬆症の最近の話題」
15	平成8年6月27日(木)	下館三の丸ホテル	柏木平八郎	「リウマチ周辺疾患の診断」
			金沢 康徳	「糖尿病治療の最近の話題」
16	平成8年11月12日(火)	下館三の丸ホテル	野原 裕	「腰椎椎間板ヘルニアの診断と治療ーとくにその自然経過からみて」
17	平成9年11月11日(火)	下館三の丸ホテル	刈谷 裕成	「関節鏡下の手術の現状」
18	平成10年9月29日(火)	下館三の丸ホテル	落合 直之	「腰痛の問題点」
19	平成10年11月12日(火)	下館三の丸ホテル	後藤 澄雄	「骨粗鬆症の診断、治療における最近の進歩」
20	平成12年6月13日(火)	下館三の丸ホテル	富永 豊	「スポーツ医学の最近の話題」



骨粗鬆症の診断と治療

—最近の話題—

医療法人宝美会総合青山病院
浜松医科大学整形外科名誉教授
井 上 哲 郎

いとぐち

骨粗鬆症およびこれを基盤として発症する骨折の発生頻度は加齢とともに高くなることが知られており、今後その患者数の増加が予測されます。骨粗鬆症は骨量が減少して、脆くなり骨折を起こし易い状態と定義されています。一旦骨折を起こしますと、本人のADLやQOLを低下させることは勿論ですが、寝たきりになることもしばしばであり社会的問題ともなります。最近このような観点からも本症の治療の最終目標は骨折を予防することにあるとされてきております。そこで今回は、骨粗鬆症の病態・診断・治療について簡単に述べてみたいと思います。

病 態

骨吸収と骨形成の不均衡状態、特に閉経後骨粗鬆症では破骨細胞の機能亢進（骨吸収優位）の結果、骨量減少がすすみ骨構造が変化すると理解されています。

診 断

1. 診断基準

診断の基本となる骨量減少を単純X線写真によって判定した時代が長く続いてきました。

しかし、本判定法は定量的・客観的でないこともあります、種々な非侵襲的骨量測定法が開発され利用されるようになりました。ところが骨量測定値のみで骨粗鬆症を診断する風潮を生み出しました。そこで骨代謝学会において診断基準案が検討され、1996年に公表されました（表1）。その後本基準が用

表1 原発性骨粗鬆症の診断基準(1996年度改訂版)

I. X線上椎体骨折を認める場合		
低骨量（骨萎縮度Ⅰ度以上、あるいは骨密度値が若年成人平均値（YAM）の80%以下）で非外傷性椎体骨折のある症例を骨粗鬆症とする。		
II. X線上椎体骨折を認めない場合		
脊椎X線像	骨密度値	
正常	骨萎縮なし	
骨量減少	骨萎縮度Ⅰ度	YAMの80~70%
骨粗鬆症	骨萎縮度Ⅱ度以上	YAMの70%未満
YAM：若年成人平均値（20~44歳）		
(注) 骨密度値は原則として腰椎の骨密度値とし、腰椎骨密度値の評価が困難な場合にのみ橈骨、第二中手骨、大腿骨頸部、踵骨の骨密度値を用いる。		
骨萎縮とはradiographic osteopeniaに相当する。		

いられてきましたが、問題点が各方面から指摘されていたことも事実であります。そこで1996年以降の研究成果を踏まえて2000年度改訂版が作成されました（表2）。その主な相違点は、1) 低骨量の評価には原則として骨密度値を用いる、2) X線上の椎体骨折を脆弱性骨折としてその骨折部位も椎体以外に大腿骨頸部・橈骨遠位端・その他を含める、3) 脊椎X線像での骨萎縮度の表現を骨粗鬆化にする、4) 脊椎X線像による骨萎縮なし、骨萎縮度I度、II度以上の区分を骨粗鬆化なし、疑いあり、ありの区分とする、であります。

2. 臨床検査

少なくとも骨代謝に関する血中Ca・P・ALPの臨床検査が必要であります。また最近になり骨代謝マーカーについての研究が盛んで、骨形成マーカー（B-ALP, Osteocalcin, PICPなど）や骨吸収マーカー（ICTP, Pyr, D-Pyr, CTX, NTXなど）で骨の病態を把握することが可能となっております。特に尿中骨呼吸マーカーを測定することによって、薬剤の選択・治療効果をモニターすることも可能であります。

治療

数多くの薬剤が市販され使用されていますが、その效能・効果に関しましてはそれぞれ骨粗鬆症、骨粗鬆症における骨量の改善あるいは疼痛の改善など様々であります（表3）。また各薬剤とも特徴的な薬理作用すなわち鎮痛をはじめ骨代謝賦活・調整を含む骨形成促進、骨吸収抑制あるいは両者を兼ね備えているものなどがあり、使用者側としましてもその選択に戸惑うところであります。それを克服するには、骨の病態を反映する骨代謝マーカーを利用するのも一つの方法ではないかと思います。また最近では、強力な骨吸収抑制作用を持つビスフォスフォネートが注目され、骨量増加を促しひいては骨折も予防することが認められてきております。

表2 原発性骨粗鬆症の診断基準(2000年改訂案)

低骨量をきたす骨粗鬆症以外の疾患または続発性骨粗鬆症を認めず、骨評価の結果が下記の条件を満たす場合、原発性骨粗鬆症と診断する。

I. 脆弱性骨折 ^(注1) あり		II. 脆弱性骨折なし	
骨密度値 ^(注2)	脊椎X線像での骨粗鬆症化 ^(注3)	骨密度値 ^(注2)	脊椎X線像での骨粗鬆症化 ^(注3)
正常	YAMの80%以上	YAMの70%未満	なし
骨量減少	YAMの70%以上～80%未満	YAMの70%未満	疑いあり
骨粗鬆症	YAMの70%未満		あり
		YAM:若年成人平均値(20～44歳)	

注1 脆弱性骨折：低骨量（骨密度がYAMの80%未満、あるいは脊椎X線像で骨粗鬆化がある場合）が原因で、軽微な外力によって発生した非外傷性骨折、骨折部位は脊椎、大腿骨頸部、橈骨遠位端、その他。

注2 骨密度は原則として腰椎骨密度とする。ただし、高齢者において、脊椎変形などのために腰椎骨密度の測定が適当でないと判断される場合には大腿骨頸部骨密度とする。これらの測定が困難な場合は橈骨、第二中手骨、踵骨の骨密度を用いる。

注3 脊椎X線像での骨粗鬆化の評価は、将来の骨萎縮度判定基準を参考にして行う。

脊椎X線像での骨粗鬆化	従来の骨萎縮度判定基準
なし	骨萎縮なし
疑いあり	骨萎縮度I度
あり	骨萎縮度II度以上

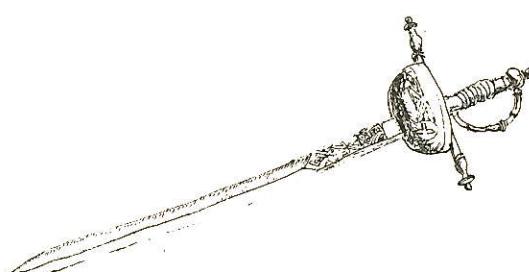
おわりに

骨粗鬆症を予防あるいは治療する最終目標は、高齢者に発生する骨折を予防し、また寝たきりへの防止にもとづめ、高齢者の健やかな生活を確保することにあります。それには生活指導や骨折の要因となる転倒防止策なども考慮して、社会的・心理的問題なども含めた全人的な治療を考える必要があると思います。

表3 骨粗鬆症治療薬剤

	成 分 名	骨粗鬆症関係効能、効果
ビタミンD	アルファカルシドール	骨粗鬆症
	カルシトリオール	骨粗鬆症
ビスフォスフォネート	エチドロン酸二ナトリウム	骨粗鬆症
ビタミンK	メナテトレノン	骨粗鬆症における骨量、疼痛の改善
イプリフラボン	イプリフラボン	骨粗鬆症における骨量減少の改善
エストロゲン	エストリオール	老人性骨粗鬆症
カルシトニン	エルカトニン	10単位：骨粗鬆症における疼痛 20単位：骨粗鬆症
	カルシトニン	骨粗鬆症における疼痛、骨量減少の改善
	サケカルシトニン	骨粗鬆症における疼痛
蛋白同化ホルモン	デカン酸ナンドロロン、他	骨粗鬆症

※平成12年度茨城県臨床整形外科医会総会（平成12年10月28日（土）京成ホテル）で御講演いた
だいた要旨です。



10年間のゴルフ

小松崎 瞳

我々整形外科医は一般的にゴルフの好きな人、うまい人が多い。常々思っていることだが、もし各科対抗をやれば、整形外科は必ず勝つと思っている。頭脳的には乏しいが、身体的に秀れている人達の集合体だからだろうか（失礼？）。スポーツ医として活躍している先生が多いのを見てもそう思う。（ゴルフをスポーツ実践の単位として認めよう。）

平成3年11月18日茨城県もJCOA内で団体県として認められ、それをトリガーとして県内の整形外科ドクターのゴルフ大会を開催することとなった。（石島会長の発案）それ以前には何人かの有志（土浦の伊野先生達）が集まってやっていた記憶があるがこれは県ドクターズ大会の流れをくむもので、はっきりと整形外科とうたっていたものではなかったと思う。第1回は石島先生の音頭で平成4年9月6日にグランドスラムに於いてプレーが始まった。以下、次の如き戦跡が残っている。

- ①H 4. 9. 6 グランドスラムCC（優勝：大木 勲 以下敬称略す）
- ②H 4. 11. 1 筑波東急CC（大木 勲）
- ③H 5. 5. 20 スプリングフィールドCC（伊野林斎）
- ④H 5. 11. 28 東筑波CC（栗山 栄）
- ⑤H 6. 6. 5 日立GC（滝田孝博）
- ⑥H 6. 11. 27 セゴビアCC（大山隆男）
- ⑦H 7. 4. 16 アジア下館CC（大木 勲）
- ⑧H 7. 11. 20 内原CC（栗山 栄）
- ⑨H 8. 5. 12 オーシャンビューGC（小松崎瞳）
- ⑩H 9. 11. 16 石岡GC（松丸禎夫）
- ⑪H 10. 5. 17 アジア下館CC（海老原克彦）
- ⑫H 10. 11. 8 美浦GC（小松崎瞳）
- ⑬H 11. 5. 23 大洗ゴルフ俱楽部（滝田孝博）
- ⑭H 11. 10. 31 石岡GC（小松崎瞳）
- ⑮H 12. 5. 28 大洗CC（中島 宏）
- ⑯H 12. 10. 29 水戸レイクスCC（小松崎瞳）
- ⑰H 13. 6. 17 大洗ゴルフ俱楽部（小松崎瞳）

以上が今までの流れだが、くわしいことは別表を参照されたい。

毎回出場者は3～4組位だが1回以上参加された方は47名もおられ全会員の半数以上の方

がゴルフを楽しんでおられる。

ゴルフは個人戦であるが個人にとってはコースと自分との戦いになるので、朝家を出る時は今日の調子によっては、ひょっとすると満足のいくスコアになるのではないかと期待して出てくるが、帰りの自動車の中では見るも無残な成績でガックリすることがほとんどである。然し、このコンペは日頃集まるチャンスの少ない我々にとっては一堂に会してお互いの情報交換の場になるので、所謂コミュニケーションの場にしては非常に大切な場となっている。話は、医業の事ばかりでなく、時には息子、娘のことにまで発展していくが、残念ながら、まとまったといううれしい話は未だ聞いていない。



13th Hole (Azalea)

T. Takagi

CJOA茨城ゴルフコンペ成績表

第1回大会（平成4年9月）～第17回（平成13年6月）

第1回

平成4年9月6日
グランドスラムCC

優勝

大木 勲

第2回

平成4年11月1日
筑波東急CC

優勝

大木 勲

幹事

結城病院
大木 勲



第3回

(氏名は敬称略)

平成5年4月18日

スプリングフィールドCC

幹事

結城病院

大木 黙

参加者 13名

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
優勝	伊野 林斎	45	46	91	19.2	71.8
準優勝	三田富士雄	52	47	99	22.8	76.2
3位	山口 修	48	50	98	21.6	76.4
4位	小松崎 瞳	45	38	83	6	77
5位	大木 黙	52	43	95	18	77
6位	渡辺 昭一	46	48	94	15.6	78.4
7位	土沢 正雄	52	54	106	26.4	79.6
8位	宮本 晋行	58	52	110	28.8	81.2
9位	松丸 稔夫	53	54	107	25.2	81.8
10位	斎藤 明宏	58	55	113	26.4	86.6
11位	大祢 廣伸	58	62	120	30	90
B B	鈴木 愉	65	58	123	27.6	95.4
B M	宮原 尚	70	70	140	36	104

ベストグロス	小松崎 瞳	83		
D C賞	土沢 正雄	3H	斎藤 明宏	16H
N P賞	小松崎 瞳 宮原 尚	8H 14H	山口 修	11H

第4回

(氏名は敬称略)

平成5年11月28日

東筑波カントリークラブ

幹事

伊野整形外科

伊野 林斎

参加者 14名

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
優勝	栗山 栄	46	43	89	14.4	74.6
準優勝	伊野 林斎	50	46	96	19.2	76.8
3位	宮本 晋行	54	53	107	30	77
4位	滝田 孝博	37	48	85	7.2	77.8
5位	大木 黙	51	50	101	22.8	78.2
6位	外間 道雄	50	50	100	20.4	79.6
7位	山口 修	48	51	99	19.2	79.8
8位	石島 弘之	49	50	99	16.8	82.2
9位	原 洋二	54	54	108	25.2	82.8
10位	平塚 進	49	45	94	10.8	83.2
11位	松丸 稔夫	59	58	117	31.2	85.8
12位	大祢 廣伸	58	60	118	27.6	90.4
B B	藤沢 裕志	56	69	125	27.6	97.4
B M	宮原 尚	66	69	135	34.8	100

ベストグロス	滝田 孝博	85		
D C賞	大木 黙	北9H	石島 弘之	中7H
N P賞	石島 弘之 平塚 進	北7H 中4H	平塚 進	北3H

第5回

(氏名は敬称略)

平成6年6月5日
日立ゴルフクラブ

幹事

栗山整形外科
栗山 栄

参加者 12名

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
優勝	滝田 孝博	36	41	77	4.8	72.2
準優勝	渡辺 昭一	40	49	89	15.6	73.4
3位	小松崎 瞳	38	43	81	7.2	73.8
4位	清水 達也	41	42	83	8.4	74.6
5位	栗山 栄	42	42	84	8.4	75.6
6位	松丸 穎夫	48	50	98	21.6	76.4
7位	小松 満	51	46	97	20.4	76.6
8位	高山 努	45	45	90	12	78
9位	石島 弘之	44	49	93	14.4	78.6
10位	宮本 晋行	46	48	94	14.4	79.6
B B	大木 黙	50	48	98	18	80
B M	宮原 尚	52	57	109	27.6	81.4

ベストグロス	滝田 孝博	77		
D C賞	石島 弘之	8 H	滝田 孝博	18H
N P賞	滝田 孝博 大木 黙	3 H 12H	小松崎 瞳 宮本 晋行	7 H 15

第6回

(氏名は敬称略)

平成6年11月27日
ゼゴビアGC

幹事

滝田整形外科
滝田 孝博

参加者・9名

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
優勝	大山 隆男	47	41	88	13.2	74.8
準優勝	山口 修	50	47	97	21.6	75.4
3位	小松崎 瞳	46	43	89	13.2	75.8
4位	滝田 孝博	47	39	86	9.6	76.4
5位	木村 郁夫	47	54	101	24	77
6位	石島 弘之	52	50	102	22.8	79.2
7位	松丸 穎夫	57	57	114	30	84
B B	伊藤 英弘	61	57	118	32.4	85.6
B M	宮本 晋行	66	59	125	31.2	93.8

ベストグロス	滝田 孝博	86		
D C賞	木村 郁夫	9 H	滝田 孝博	11H
N P賞	小松崎 瞳 木村 郁夫	3 H 14H	木村 郁夫 滝田 孝博	8 H 17H

第7回

(氏名は敬称略)

平成7年4月16日
 アジア下館
 カントリークラブ
幹事
 山口整形外科
 山口 修
参加者 10名

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
優勝	大木 獻	49	48	97	24	73
準優勝	原 洋二	41	43	84	10.8	73.2
3位	石島 弘之	47	45	92	18	74
4位	木村 郁夫	46	42	88	13.2	74.8
5位	宮本 晋行	47	49	96	20.4	75.6
6位	小松崎 瞳	42	42	84	7.2	76.8
7位	山口 修	48	45	93	15.6	77.4
8位	杉村 貞男	50	47	97	13.2	83.8
B B	松丸 稔夫	53	53	106	20.4	85.6
B M	松岡 正裕	72	62	134	34.8	99.2

ベストグロス	小松崎 瞳	84		
D C賞	小松崎 瞳	5H	小松崎 瞳	14H
N P賞	大木 獻 山口 修	H H	大木 獻 山口 修	H H

第8回

(氏名は敬称略)

平成7年11月26日
 内原カントリークラブ
幹事
 結城病院
 大木 獻
参加者 8名

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
優勝	栗山 栄	39	44	83	10.8	72.2
準優勝	渡辺 昭一	41	43	84	10.8	73.2
3位	大木 獻	50	45	95	20.4	74.6
4位	大祢 廣伸	47	50	97	21.6	75.4
5位	原 洋二	48	44	92	15.6	76.4
6位	宮本 晋行	48	49	97	19.2	77.8
B B	後藤 昇	53	53	106	26.4	79.6
B M	松岡 正裕	57	54	111	25.2	85.8

ベストグロス	栗山 栄	83		
D C賞	栗山 栄	6H	渡辺 昭一	14H
N P賞	渡辺 昭一 宮本 晋行	4H 16H	原 洋二	11H

第9回

(氏名は敬称略)

平成8年5月12日
 ザ・オーシャン
 ゴルフクラブ
 幹事
 栗山整形外科
 栗山 栄
参加者 15名

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
優勝	小松崎 瞳	43	42	85	15.6	69.4
準優勝	栗山 栄	43	42	85	13.2	71.8
3位	原 洋二	44	39	83	9.6	73.4
4位	平塚 進	44	45	89	14.4	74.6
5位	松丸 穎夫	53	51	104	28.8	75.2
6位	吉成 尚	55	47	102	26.4	75.6
7位	吉田 透	43	48	91	14.4	76.6
8位	太田 実	49	54	103	26.4	76.6
9位	木村 郁夫	47	46	93	15.6	77.4
10位	土沢 正雄	41	49	90	12	78
11位	石島 正雄	42	48	90	12	78
12位	大祢 廣伸	46	50	96	18	78
13位	伊藤 英弘	53	52	105	26.4	78.6
B B	宮本 晋行	53	46	99	18	81
B M	後藤 昇	52	49	101	13.2	81.8

ベストグロス	原 洋二	83		
D C賞	吉田 透	6H	吉田 透	10H
N P賞	伊藤 英弘 太田 実	4H 12H	石島 弘之 小松崎 瞳	8H 15H

第10回

(氏名は敬称略)

平成9年11月16日
 石岡ゴルフクラブ
 幹事
 日立整形外科
 小松崎 瞳
参加者 13名

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
優勝	松丸 穎夫	52	50	102	25.2	76.8
準優勝	滝田 孝博	41	41	82	4.8	77.2
3位	大山 隆男	43	42	85	7.2	77.8
4位	原 洋二	45	44	89	10.8	78.2
5位	木村 郁夫	45	57	102	19.2	78.8
6位	宮本 晋行	52	53	105	24	81
7位	大木 獻	54	50	104	22.8	81.2
8位	海老原克彦	56	53	109	27.6	81.4
9位	小松崎 瞳	48	48	96	13.2	82.8
10位	土沢 正雄	50	54	104	20.4	83.6
11位	吉田 透	55	52	107	21.6	85.4
B B	後藤 昇	51	59	110	24	86
B M	松岡 正裕	64	55	119	32.4	86.6

ベストグロス	滝田 孝博	82		
D C賞	海老原克彦	16H		
N P賞	大山 隆男 大木 獻	4H 13H	大山 隆男 木村 郁夫	8H 17H

第11回

(氏名は敬称略)

平成10年5月17日
 アジア下館
 カントリークラブ
幹事
 松丸整形外科
 松丸 祐夫
参加者 11名

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
優勝	海老原克彦	44	44	88	18	70
準優勝	山口 修	42	44	86	15.6	70.4
3位	高木 俊男	48	48	96	22.8	73.2
4位	木村 郁夫	42	48	90	15.6	74.4
5位	小松崎 瞳	46	42	88	13.2	74.8
6位	原 洋二	45	48	93	18	75
7位	土沢 正雄	53	49	102	25.2	76.8
8位	後藤 昇	46	59	105	26.4	78.6
9位	斎藤 明宏	50	49	99	20.4	78.6
B B	吉田 透	55	51	106	22.8	83.2
B M	松岡 正裕	55	56	111	22.8	88.2

ベストグロス	山口 修	86		
D C賞	海老原克彦	8 H	原 洋二	14H
N P賞	原 洋二 小松崎 瞳	4 H 11H	松岡 正裕 高木 俊男	H 15H
小波賞	斎藤 明宏	50 49		

第12回

(氏名は敬称略)

平成10年11月8日
 美浦GC
幹事
 海老原整形外科
 海老原克彦
参加者 10名

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
優勝	小松崎 瞳	43	49	92	16.8	75.2
準優勝	野村 勇	49	47	96	20.4	75.6
3位	石島 弘之	54	52	106	28.8	77.2
4位	原 洋二	45	44	89	10.8	78.2
5位	海老原克彦	50	53	103	24	79
6位	吉成 尚	45	54	99	19.2	79.8
7位	伊野 林齊	48	44	92	12	80
8位	吉田 透	54	48	102	20.4	81.6
B B	大木 熟	55	54	109	25.2	83.8
B M	斎藤 明宏	67	61	128	36	92

ベストグロス	原 洋二	89		
D C賞	吉田 透	9 H	吉田 透	11H
N P賞	吉成 尚 吉田 透	3 H 6 H	吉田 透 吉田 透	14H 16H

第13回

(氏名は敬称略)

平成11年5月23日
大洗ゴルフ倶楽部

幹事

日立整形外科
小松崎 瞳

参加者 26名

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
優勝	滝田 孝博	42	38	80	9.6	70.4
準優勝	山口 修	46	43	89	16.8	72.2
3位	小松崎 瞳	41	42	83	9.6	73.4
4位	清水 達也	41	42	83	9.6	73.4
5位	広瀬 広	45	44	89	15.6	73.4
6位	原 洋二	46	45	91	16.8	74.2
7位	石島 弘之	44	46	90	15.6	74.4
8位	栗山 栄	47	43	90	15.6	74.4
9位	大木 熱	51	45	96	21.6	74.4
10位	土沢 正雄	47	49	96	20.4	75.6
11位	高木 俊男	52	44	96	20.4	75.6
12位	渡辺 昭一	46	48	94	18	76
13位	大山 隆男	44	37	81	3.6	77.4
14位	小松 満	49	49	98	20.4	77.6
15位	柳橋 斎	47	45	92	14.4	77.6
16位	下田 雅樹	49	53	102	22.8	79.2
17位	藤沢 裕志	54	56	110	30	80
18位	後藤 昇	60	57	117	36	81
19位	松岡 正裕	57	54	111	30	81
20位	宮本 晋行	53	56	109	27.6	81.4
21位	木村 郁夫	50	62	112	30	82
22位	広瀬 秀史	62	55	117	33.6	83.4
23位	斎藤 明宏	56	54	110	26.4	83.6
24位	林 建人	60	56	116	32.4	83.6
B B	大祢 廣伸	47	49	96	12	84
B M	吉成 尚	58	51	109	24	85

ベストグロス	滝田 孝博	80		
DC賞	高木 俊男	7H	小松 満	7H
	滝田 孝博	18H	高木 俊男	18H
N P賞	宮本 晋行	4H	大祢 廣伸	4H
	清水 達也	8H	大山 隆男	8H
	大山 隆男	14H	栗山 栄	14H
	滝田 孝博	16H		

第14回

(氏名は敬称略)

平成11年10月31日
石岡ゴルフクラブ

幹事

滝田整形外科
滝田 孝博

参加者 15名

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
優勝	小松崎 瞳	41	54	95	20.4	74.6
準優勝	吉田 透	48	41	89	14.4	74.6
3位	大祢 廣伸	56	55	111	36	75
4位	滝田 孝博	43	37	80	4.8	75.2
5位	大山 隆男	46	39	85	8.4	76.6
6位	石島 弘之	46	42	88	10.8	77.2
7位	藤沢 裕志	48	54	102	24	78
8位	木村 郁夫	49	43	92	13.2	78.8
9位	橋田 雅美	46	50	96	16.8	79.2
10位	宮本 晋行	50	58	108	27.6	80.4
B B	松丸 稔夫	59	58	117	36	81
B M	吉成 尚	56	51	107	15.6	91.4
参加賞	小林 博隆	40	53	93		
参加賞	八百坂仁志	47	46	93		
参加賞	中原 義人	56	50	106		

ベストグロス	滝田 孝博	80		
D C賞	中原 義人	7H	石島 弘之	14H
N P賞	大山 隆男 大祢 廣伸	4H 13H	木村 郁夫 木村 郁夫	8H 17H

第15回

(氏名は敬称略)

平成12年5月21日
大洗ゴルフ倶楽部

幹事

日立整形外科
小松崎 瞳

参加者 19名

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
優勝	中島 宏	40	46	86	13.2	72.8
準優勝	大山 隆男	36	43	79	6	73
3位	滝田 孝博	44	43	87	10.8	76.2
4位	木村 郁夫	47	56	103	26.4	76.6
5位	土沢 正雄	51	52	103	25.2	77.8
6位	小松崎 瞳	42	43	85	7.2	77.8
7位	石島 弘之	45	48	93	14.4	78.6
8位	吉成 尚	51	52	103	24	79
9位	栗山 栄	47	44	91	12	79
10位	渡辺 昭一	45	47	92	12	80
11位	清水 達也	46	43	89	8.4	80.6
12位	大木 黙	50	50	100	19.2	80.8
13位	後藤 昇	50	59	109	26.4	82.6
14位	大祢 廣伸	57	56	113	30	83
15位	高木 俊男	52	60	112	28.8	83.2
16位	藤沢 裕志	50	55	105	20.4	84.6
17位	橋田 雅美	57	53	110	25.2	84.8
B B	山崎雄一郎	52	54	106	20.4	85.6
B M	小松 滿	46	53	99	13.2	85.8

ベストグロス	大山 隆男	79		
D C賞		H		H
N P賞		H		H

第16回

(氏名は敬称略)

平成12年10月29日
水戸レイクスCC

幹事

小松整形外科
中島 宏

参加者 15名

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
優勝	小松崎 瞳	43	39	82	12	10
準優勝	大祢 廣伸	53	46	99	27.6	71.4
3位	木村 郁夫	43	43	86	14.4	71.6
4位	中島 宏	43	42	85	13.2	71.8
5位	橋田 雅美	47	45	92	19.2	72.8
6位	吉田 透	47	48	95	21.6	73.4
7位	原 洋二	39	42	81	7.2	73.8
8位	大山 隆男	42	43	85	10.8	74.2
9位	滝田 孝博	43	39	82	7.2	74.8
10位	大木 黙	50	50	100	21.6	78.4
11位	高木 俊男	51	48	99	20.4	78.6
12位	小松 満	48	51	99	20.4	78.6
13位	井上 哲郎	49	55	104	25.2	78.8
B B	吉成 尚	50	42	92	13.2	78.8
B M	山崎雄一郎	54	52	106	24	82

ベストグロス	原 洋二	81		
D C賞	原 洋二	5 H	橋田 雅美	16H
N P賞	小松 満	3 H	大山 隆男	16H
水平賞	木村 郁夫			
大波賞	井上 哲郎			

第17回

(氏名は敬称略)

平成13年6月17日
大洗ゴルフ俱楽部

幹事

日立整形外科
小松崎 瞳

参加者 14名

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
優勝	小松崎 瞳	42	41	83	9.6	73.4
準優勝	清水 達也	39	43	82	8.4	73.6
3位	土沢 正雄	47	50	97	22.8	74.2
4位	柳沢 齊	46	44	90	14.4	75.6
5位	大木 黙	44	52	96	19.2	76.8
6位	吉成 尚	56	55	111	33.6	77.4
7位	小松 満	48	45	93	14.4	78.6
8位	藤沢 裕志	45	54	99	19.2	79.8
9位	中島 宏	44	48	92	12.0	80.0
10位	木村 郁夫	55	47	102	21.6	80.4
11位	土田 功一	54	54	108	27.6	80.4
12位	廣瀬 秀史	54	48	102	20.4	81.6
13位	高木 俊男	58	47	105	22.8	82.2
14位	大祢 廣伸	59	56	115	27.6	87.4

ベストグロス	清水 達也	82		
D C賞				
N P賞				

編集後記

茨城県臨床整形外科医会は日本臨床整形外科医会の支部として、正式に加入して団体県となってから今年でちょうど10年になりました。これを記念して10周年祝賀会を開くと同時に記念誌も発刊することになりました。当県では昭和53年頃より先達の先生方が集まりを持ち、その輪が大きく広がったものです。

記念誌に各界の先生方から御寄稿頂き、誠にありがとうございました。この会は県内の整形外科の開業医と私の医療機関の勤務医が共に手を携えて勉強会やゴルフ等で親睦を深めています。会員の先生方はそれぞれの個性を活かして日々診療に当っていますが、この会を通して多くの情報が得られ、これから発展に寄与できればと願っています。

(H13.8.29 記)

編集委員 高木俊男
小松満
荒川重光
中村尚



2001.9.6

T. Kakagi